

# —茨城の県民性—

## —「県民性調査」の結果より—

県民性調査は昨年県統計課が実施したもので、数ヶ月にわたる集計、分析の結果が最近ようやくまとまつたので、ここにその一部を紹介する。なお、詳細を知りたい場合は、県統計協会から発売される県民性調査の解説及び統計編によられたい。

### はじめに

従来、国民性が県民性を解明するうえで、主としてとられてきた方法は、文献や資料を手がかりに、国民または県民の特色ある考え方をひき出してゆくという文献研究的方法である。しかし、この県民性調査では、ある与えられた場面と条件のもとで、茨城県民ならばどう思い感じ、考え、そして行動するかを統計的に測定し、その結果を通して、県民性を「集団単位にみた特性」としてとらえようとした。また、この調査では、県民性をそれ自体として観察するばかりでなく、国民性との比較において明らかにすることにも力点をおいている。こうしたことでも、調査項目の選定、調査方法等多くの点で國の統計数理研究所の「国民性に関する研究調査」を典型とした。

県民性に関する調査は、本県においてははじめての試みであるため、その実施にあたつては、充分注意のゆきとどかなかつた面もあろうかと思われるが、本県県民性の解明のために、いささかでも役立つところがあれば幸いである。

### 県民性とは何か

県民性とは何かということを説明することは必ずしも困難ではない。県民の性格として変ることの少ない根源的なもの、あるいは県民のすべてに共通する性格をなどといえば、ほぼ足りるであろう。

しかし、そういう意味での県民性を具体的にどのような面についてとらえるか、またどのような方法で明らかにするかということになると問題はかなり難かしくなる。この調査では、個人としての一般的な生活態度、宗教に対する考え方、家の意識、社会生活に対する態度、政治的態度等といった諸点から県民性に接近しようとしているが、こうした観点以外にも、いろいろな見方が可能であつて、それぞれの見方に応じた整理や接近の方法があり得るであろう。こうして、どういう側面から県民性を明らかにすべきかということは、一口に言えないわけである。またそのように多角的な県民性をどのような方法でとらえたらよいかということも一律にきめ難いことである。各種の文献に現われたところから調べ出す方

法や統計的な手法で調査するなどはその主要なものですが、いずれもそれぞれ特長があつて、にわかにわかるところをきめにくく。

### 県民性調査の立場

従来、国民性あるいは、県民性を明らかにする立場としては、文献や資料などから特色ある性格をとりだす方法がとられた。これは、どちらかといふと、抽象的、解釈的な立場であり、県民の意見、態度、行動についての一般的説明原理を研究するという傾向がある。

これに対して、今回の県民性調査では、統計調査場から一般の県民が、どう考え、感じ、行動するかを明らかにしようとした。具体的にいえば、調査者に対して、いくつかの場面を設定して質問され、この与えられた状況のもとでいかに考え、感じ、いかに行動するかを答えてもらい、その結果、茨城県民全体の特性を推定しようとした。すなわち、抽象的な考え方ではなく、実際に観測された人びとの行動「集団単位にみた特性」または「個人単位による総合的パターン」として県民性をとらえようとする立場である。

このようにして明らかにされる県民性はそれ自身で充分に意味のあるものであるが、さらに、県民性との比較において明らかにすることにも力を入れたので設問の内容や調査の方法については、できる限り全国的な規模で行なわれた国民性調査に準拠するにし、その典型として「国民性調査に関する研究」を参考とした。

### 調査のあらまし

#### 1 調査の対象

昭和39年12月20日確定の基本選挙人名簿に登録された有権者の中から抽出した約4,500人を対象とした。ただし、20歳以下の者は除外し、独立して社会生活をする者の意見や考え方として県民性をとらえることを考慮した。

#### 2 質問事項

「国民性調査」との比較を考慮して次の100項目を設定した。

質問數	問 群
7	基本項目
5	個人的態度
5	宗教
6	子供・家庭
9	身近な社会
4	男女差別
10	一般の社会問題
7	政治的態度
3	日本人、人種
5	その他（県独自のもの）

## 調査の方法

は、単記票で自記式とし、設問の回答方式は回  
とし、調査は郵送によって実施した。

## 調査結果の精度

さNの母集団からN個のサンプルをランダムに抽出するときの相対誤差は、 $\sqrt{P(1-P)/n}/P$ である。県民性調査は、2段抽出であるから、この式で計算される値よりやや大きく、ほぼ $\sqrt{2.5}$ 倍程度に見込まれる。よって、回答（カテゴリ）の比率が未満または、集計標本数が100未満であるような場合はサンプリング誤差が大きいから注意する必要がある。

## 全体から見た結果

## 質問群にみた結果

民性調査の質問文とカテゴリ（選択肢）別単純集計結果は、「付表1 質問文および単純集計の結果」に示すとおりである。また、個々の質問を性別、年令層別、職業別等の層別に集計した結果については「別にみた結果」で詳しく述べることにしている。これは、質問全体をそのおおよそその傾向によつて、「政治態度」、「宗教」、「子供、家」などといったばかりの群に分けて、それらの質問群ごとに集計結果を述べることにする。

## (1) 個人的態度

「自分が正しいと思うことが世のしきたりに合わない」どうすべきかという質問に対しては、はつきり「通すべきだ(17%)」とする人も、「従え」(16%)の人が少なくて、「場合による」(67%)が大部分だった。しかし「自分の考へが正しいと思つても他人にいれられないとき」「おしきつて実行」すべきで

ある(58%)という答えは過半数をしめ、"とりやめ"(38%)を少し上まわつた。ここには、世間のしきたりと他人の反対とで多少差が出ているが、総じて世間のしきたりや他人の反対に対しては、これをおしきつて、信を貫くべきだとしながらも、それも時と場合によるという比較的おだやかな態度が強いとみられる。

「自分の気持に近いくらし方」としては、全体の半数に近い人が「清く正しくくらすこと」(47%)と答え、「趣味にあつたくらし」(31%)と「その日その日のんきにくらす」(9%)がこれに次いでおり、「金持ちになる」(7%)、「社会のためにすべてをささげて」(3%)、「名をあげる」(1%)などといつたくらし方にはあまり関心がない。また「あなたにとつて一番大切と思うもの」を自由に答えてもらつたところ、「愛情」(誠実、幸福など精神的なもので、かなり範囲をひろくとつた) (24%)と「健康、生命」がこれに次ぎ、「家族」(11%)、「子供」(3%)がこれに次ぎ、「金財産」(2%)や「仕事」(2%)などは少ない。両方の質問から、県民の多くは、社会のためとか金持になる名をあげるなどといつたどちらかといえば社会的目的をもつたくらし方よりも、平和で清潔で趣味に合つたいわば小市民的な生活を望んでいるとみられる。

「自然と人間」については、『自然を利用しなければならない』(48%)が半分に近く、『征服』(25%)と『従え』(22%)とはほぼ同率で、しかも『利用』よりも少ないと少ない。この問題についても、県民は比較的の穏健かつ中庸な考え方を示しているとみられよう。

## (2) 宗教

「信仰とか信心とかを持つているか」という質問に対しても、『持つている』(42%)よりも『持っていない』(54%)の方がやや多かつた。しかし、持つていないをさらに分けると、宗教的な心は『大切である』(39%)と『大切でない』(11%)とにわかれるので、前の『持つている』にこの『大切である』を加えると全体の81%になり、はつきり『大切でない』と答える者は11%にすぎないことになる。このことから、県民は全体としては宗教心にあついということができよう。なお、『持つている』者の中では仏教が29%（持つている者を100とすると69%）でもつとも多く、残りは神道7%（17%）その他5%（12%）となつてゐる。

次に「人間の本来の性質は善であるか悪であるか」といういわゆる性善説、性悪説に対する考え方をみると、「善でも悪でもない」(35%)、「善でも悪でもある」(31%)および「善である」(30%)と答えた人がそれぞれほぼ3分の1ずつとなり、はつきり「悪である」(1%)と考える人はきわめて少ない。総じて、県民は人間の本来の性質に対しては肯定であると見られよう。

宗教に関する問題として、「あたらしく総理大臣になつたとき、伊勢の皇太神宮にお参りする人があるが、このことをどう思うか」と聞いたのに対しては、「本人の自由」(69%)と答えた人が圧倒的で、残りの人については、「肯定的意見」(27%)が「否定的意見」(3%)をかなり上まわつた。なお、肯定的意見の中で、はつきり「行かねばならぬ」(4%)とする者も、否定的意見の中で「行くべきでない」(2%)とする者ものもともに少ない。この質問では、信教の自由の問題が総理大臣という特殊な立場にいる人のあり方とからみ合つてゐるが、県民全体としては、この問題に対しては比較的大な良識的な立場をとる者が多いといえよう。

### (3) 子供・家

母親の多くは、「いやがる子供を使いに出すとき」は「金」(15%)や「すきなもの」(13%)をやつたり、誰かに「言いつける」と(2%)いつておどしつけたりしてではなく、「よく言い聞かせて」(67%)行かせる。つまり子供の人格を尊重する立場をとつてゐる。また、「小さな子供を育てるとき」は、「自由の尊さ」(24%)を教えるよりも「規律の尊さ」(74%)をこそ教えるべきだと考える人が多く、しつけを重視していることがわかる。

「先生が悪いことをしたことが本当である場合、それを子供にたずねられたとき」、「そんなことはないといふ」(43%)のと「ほんとうだといふ」(52%)のとではあまり差はないが後者の方がやや多くなつてゐる。つまり、子供の教師に対する信頼感を失わせまいとしての配慮から、善意のウソを認めようとする意見(前者)よりも、真実はかくすべきではないとする意見(後者)の方が多かつたことになる。

次に家に関する質問として、「結婚式や葬式は多少金がかかつても盛大にやる人があるが、これをどう思うか」という設問では「身分相応に」(86%)が圧倒的に多く、「よくない」(10%)がこれについており、肯定的な意見としての「しかたがない」(3%)と「盛大に」(1%)はいずれもわずかであつた。實際には、世間でいなどから心ならずも「盛大に」やる人も多いと思われるのが回答で見る限り、この問題では県民はかなり良識的あるといえよう。

「あなたは何かするときに、本家(本宅)とか分家(新家、新宅)とかを考えに入るかという問題では「考こに入れる」(64%)の方が、「考えに入れない」(34%)よりも多かつた。また「子供がないときは、他人の子供でも養子にもらつて家をつがせ」るかという問題に対しては、「場合による」(6%)がいちばん多かつたが、残りの人達の中では「つがせる」(35%)の方が「つがせない」(4%)よりはづつ多い。これらの結果

から、「家」の意識は依然として強く、人々の考え方や行動の決定の上で、大きな影響をもつてゐることがうかがわれる。

### (4) 身近な社会

「会社の社長として非常に大切な会議をかかえていたとき大恩ある人のキトクの報に接したとしたらどうするか」という意味の設問では、「すぐ故郷へ帰る」(53%)が「会議に出る」(45%)よりやや多くなつた。「キトクなのが恩人でなくて親である場合」になると前とは反対に「故郷へ帰る」(43%)は「会議に出る」(54%)より少なくなつた。

また、「会社の社長として社員を1人だけ採用するに当り、成績は2番でも親戚の子である人と、そういう関係はないが1番になつた人とではどちらをとろうとするか」という設問では「1番の人」(78%)が「親戚の子」(19%)よりはるかに多かつた。しかし、設問が「2番になつたのが恩人の子であつたら」ということになると「1番の人」(53%)の比率は前よりかなり減り、「恩人の子」(42%)の比率は高くなる。

以上2種類の設問から、公的立場にある者は右されるべきでないという公私の別をはつきりさせるとする考えは強いとみられるが、他面、恩人への感謝のためにはその考えもかなり後退する様子がわかる。

「親孝行、恩返し、個人の権利の尊重および自由尊重の4つの徳目のうち大切と思うもの2つ」を上げると、「親孝行と恩返し」(28%)またはそれらのうちの1つだけ(「親孝行とDK」または「恩返しとDK」)をあげたいわば「戦前型」(合わせて36%)も「権利の尊重と自由の尊重」(14%)またはそれらのうちの1つだけ(「権利とDK」または「自由とDK」)をあげたいわば「戦後型」(合わせて24%)もともに多くなることなく、戦前型のうちの1つと戦後型のうちの1つを組合せたいわば「混合型」(合わせて40%)もむしろ多かつた。次に、4つの徳目のうちの1つを着目した集計では、「親孝行」(63%)、「権利」(45%)、「恩返し」(44%)および「自由尊重」(36%)の順となり、「親孝行」の比率が高い。これらの結果から県民全体としては、「戦前型」と「戦後型」のどちらにも片寄つていないことがわかるがどういえば戦前型の方が戦後型よりやや比重が高いよう。

カネについての問題で「何かするのに、出し合ひが高いと思われるとき」はどうするか、という問いただては、おカネのことははつきりさせるため「高価な物を買ふ」(68%)という答えが、おカネのことはあくまでくないから「だまつておこう」(30%)といつてはりづつと多くなつてゐる。他面「世話になつた人

「買つて行くとき」は多少遠くても「安い店」（  
「有名な店」（20%）をえらぶと答える人より  
近所の店」（69%）でと答える人の方がかなり多  
うして、おカネの問題では、おカネのこととははつ  
せるという割りきった態度がかなり強く出ている  
一方買物の問題からは、「安い店」を選ぶという經  
理性にかなつた態度はむしろ少くて、同じ買うな  
みの深い店でという「近所の店」や権威主義とみ  
る「有名な店」という答えが多くみられる。ただし  
この「近所の店」には、時間の節約を重くみる立  
また「有名な店」には贈り先に与える効果を重視  
え方が含まれ得るので、いちがいに結論は出しに

社にタイプのちがつた2人の課長がいるとき」人される立場としては、仕事でムリは言つても何かのことは「めんどうを見る課長」(86%)の方が、ムリをなくしても「めんどうをみない課長」(11%)よりもと考えておる、しかもその意見は圧倒的に多また、「四十七士の仇討」は「あの時代としてはよ(65%)」という条件のついた肯定を含めて、仇討に面な意見」(71%)が多数で、「否定的意見」(採は少ない。これらの問題および前の帰郷か会議か、買物等の問題から見て、県民には、義理や人情見る気持ちが強いといえよう。

男女差別

「もう一度生れかわろうとしたら、男と女のどちらに  
てきたいか」という質問には、大部分の人が「男に  
(31%)」と答え、「男に」(17%)と答えた人はきわ  
少なかつた。この答えに対しては予想されるように  
男女では差があり、男ではそのほとんどが「男に」  
(26%)と答えたが、女の場合は「男に」(68%)とい  
ふ少ない。この答えは、今の世の中では、男の方が  
より歩が良いという認識が男女を通じて強いことを示  
るのであろう。

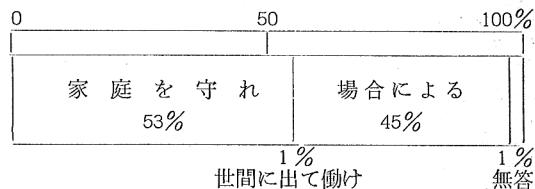
に、「中学校の男女  
に賛成か」という質  
についての結果をみると  
「賛成」(79%)が圧  
勝で「反対」(19%)  
はるかになん少かつた。  
この結果から、中学校の  
男女共学は、制度として  
決まりでなく、人びとの  
立場の上にも定着して  
いることがわかる。また、  
中学校の男女共学に関する限り、男女差別の傾向はみられ  
ないといつてよからう。

項目	回答率(%)
満足感	48
趣味	32
のんきに	10
金持	7
社会貢献	3
名前立てる	2

方	%)
清く正しく	47
趣味	31
のんき	10
金持	7
社会貢献者	3
名主	1

「結婚した女性は家庭を守るべきかそれとも世間に出て働くべきか」という質問への答えをみると、『家庭を守れ』(53%)が半数をこえ、『場合による』(45%)がこれに次ぎ、『世間に出て働く』(1%)はほとんどなかつた。男の働きだけで人並みの生活を維持することができないとか、未亡人であるとかいつたことがない限り女は家庭を守るべきだという意見が支配的とみてよからう。

図2 女は家庭か世間か

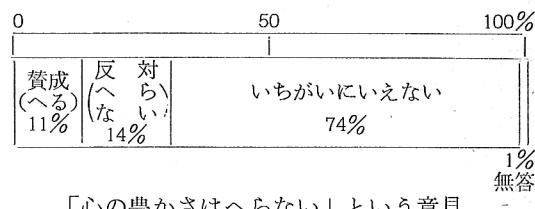


次に「生れつき、物事を考えたりまとめたりする能力は、男と女で差があると思うか」という質問では、『差あり』(54%)が『差なし』(45%)をや上まわった。この関係は、男女によつてもその他の階層間でもあまり変りはない。ここで『差あり』とする考えは、男女差別に通ずるところがあるとみられるが、あとでもふれるように、この『差あり』という意見は、全国や岐阜県の結果にくらべるとかなり低率になつてゐる。

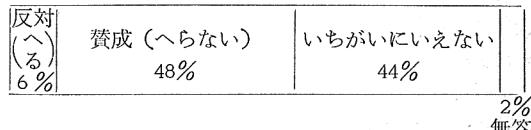
## (6) 一般の社会問題

図3 機械化の問題

「人間らしさはへる」という意見



「心の豊かさはへらない」という意見



「世の中の機械化によつて人間らしさはへると思うか」という質問では、同じ内容の問題を一方は機械化に否定的な意見に対する賛否として、他方は機械化に肯定的な意見に対する賛否を求めるかたちで提示したが、被調査者の2つの設問に対する解釈の差があらわされて、得られた答えには若干のひらきがみられた。しかし、二つの答えの間には全体としては一応矛盾はなく、機械化に否定的な第1の質問（「へる」11%，「へらない」14%）でも、肯定的な第2の質問の答（「へる」6%「へら

ない(48%)でも機械化によつて人の心の豊かさ(人間らしさ)はへらないとして機械化を肯定する考え方方が強くなつてゐる。ただし、問題のむづかしさから、両問とも「いちがいにいえない」(第一問74%, 第2問44%)が非常に多くなつてゐることを無視することはできない。

「個人の幸福と全体(日本)との関係」としてあらかじめ定めた3つのカテゴリに対する支持率をみると、「個人が幸福になつて、はじめて日本全体がよくなる」(34%), 「日本がよくなつて、はじめて個人が幸福になる」(30%), 「日本がよくなることも、個人が幸福になることも同じ」(34%)のいずれもほぼ3分の1ずつになつた。次に、「現在日本では次のどちらが多いと思うか」として示した2つのカテゴリについては、「公の利益のために個人の権利が軽んぜられていることが多い」(46%)と「個人の権利のために公の利益が無視されることが多い」(44%)とではほとんど差がなかつた。前者は公益のために、個人が軽視されていると感じていることから「個人重視」の立場に近く、後者は反対に「公益重視」の考えが強いとみられよう。両方の質問から県民全体としては、社会全体を相対的に個人より重く見る考え方も、その反対に個人より社会全体をより重視する立場も共に多数を占めていないことがわかる。

「法律のあり方」として「法律は、お互にぐあいよく生活きるようにつくるべきだ」(37%)という考え方と法律は世の中に正義が行なわれるようにつくるべきだ」(61%)という考え方とでは、後者への支持がずっと高かつた。「ぐあいよく生活できる」ためには、「正義が行なわれる」ことが前提となるから、二つの考え方にはあまり大きな差はないとみられよう。しかし、「正義が行なわれるよう」いう考え方の方が、「ぐあいよく生活できるように」という考え方よりも、法律に対する期待としてはよりは積極的であるとみることができよう。

「功労のあつた人に対しては勲章を出すべきか賞金を出すべきか」を問うために対し、「勲章はぜひ出さなければならぬ」が、必ずしも賞金を出す必要はない」(71%)という意見が、「賞金はぜひ出さなければならぬ」が、必ずしも勲章を出す必要はない」(23%)をかなり上まわつた。この結果から、県民全体としては、国家や社会への功労に対しては、賞金(実利)よりも勲章(名誉)をと考へる者が多いと言えるが、他面、権威、主義的考え方方が強いとみることもできる。

「実際に必要な品物の製造や売買に従事する人と学者や芸術家などとではどちらが社会的にみて価値が高いと思うか」という質問では、「実際の仕事」(23%)が「学者や芸術家」(7%)より多くなつたが、いずれも少数でそれらの両方に価値をみとめて「いちがいに言えない

」(68%)と答えたものが圧倒的に多かつた。

「りっぱな研究をした科学者が、国際会議で日本としてそれを報告することになつてゐる。もし彼がその直前、人妻と関係するような不道徳をしてかしたら」という設問で4つの選択肢を用意した。その結果をみると、「業績が立派ならよい」(14%), 「科学私生活は別」(37%), 「不道徳は許せぬ」(25%)および「ふさわしくない」(20%)のどれも多数を占めていた。いま前の2つを肯定的意見として、後者の2つを否定的意見として総括すると、「肯定」(37%)の方が否定(45%)よりやや多くなつた。

「教育施設や社会施設の経費をつくるために、市町村が競輪や競馬のようなカケゴトをひらくことについては、これを「よい(やむをえない)」(29%)とすこしは数で、多くの人は「よくない」(69%)と考えている。つまり県民は目的が立派だからといつて、それを実現するための手段が社会的にみてマイナスを生ずるようない方は好ましくないと考えているといえよう。

「工場や会社で労働組合をつくることについて」「労資が対立関係になるのはよくない」(23%)という意見よりも「労働者は組合をつくつて、自分達の権利もつてゆくのがよい」(67%)とする意見がずつと多い。こうした意見の分れ方は、あとでみると年令、学歴等のちがいによつて大きく変るようではない。この結果から、労働組合に対する肯定的な意見は県民の各層に広くゆきわたつてゐることを知ることができる。

## (7) 政治的態度

「日本をよくするよめには、すぐれた政治家がいたら、国民が互に論議をたたかわせるよりは、そのままかせた方がよいと思うか」という問に対しても「かせる」(17%)よりは「まかせない」(28%)少し多かつたが、時、人による」(44%)というむしろ一番大きな比重を占め、ほかに「こんな人がよい」(8%)が少しみられた。いま、「時、人に」と「こんな人は出ない」(後者は、出ればまかせる意味にとれる)は、程度の差はあるても「まかせない」立場とみられるから、条件付きの立場も含めて「かせる」はほぼ70%になり、「まかせない」の立場がよく上まわることになる。こうした結果は、現在の民主主義にかなりなじんでいるはずと見られる。その代議政治に対する考え方を示すものとしてしよう。

「民主主義、資本主義、自由主義および社会主義」とことばから受ける感じ」を聞く質問では、「民主主義がいちばん好感をもたれており、「よい感じ」と答える者の比率が4つの言葉の中ではいちばん

感じ〃(3%)はきわめて少なかつた。これ「資本主義」〃はよくない感じ〃(31%)がよい感じ〃(5%)は少なくなつてゐる。ほかの主義」および「社会主義」は前の2つの言葉の中なるが、「自由主義」では〃よい感じ〃(22%)がない感じ〃(12%)を上まわつたのに対し、「社では、〃よくない感じ〃(21%)が〃よい感じ〃より多かつた。しかしながら、4つのどの言いてみても、〃時と場合による〃という答えが40に達しており、民主主義以外の言葉ではいづれも最高になつてゐる。このことから、民主主義も含それらの言葉が〃よい感じ〃か〃よくない感じ〃時と場合による〃とする者が多く、それぞれの言たは主義)によい面と悪い面とを認める意見の強わかる。なお、それぞれの言葉に対する感じ方関係——たとえば、「資本主義」と「自由主義」主義」と「社会主義」との関係など——には、強関係はみとめられない。

者は専門の研究のほかにどの程度に政治に関係す」という設問では、「専門の研究に専心せよ」という意見も「研究ばかりでなく、進んで政治手せよ」14%もともに少なく、両者どちらにも片寄り、いわば中庸な立場である「専門の研究のほかにもある程度の関心を」(60%)という意見が多数あつた。この設問で「専門の研究」とあるのを他の多業に置きかえても、この結果にあまり変化はないられる。

選舉への関心」をみるために衆議院議員選挙の場合にあげてきいた質問では、「なにをおいても投票」と「なるべく投票」(36%)を合わせて95%近く選挙への関心の高さが示されている。

日本人・人種

自身は、「県民の性格」つまり県民性をどのように見ているか。これをみるために、長所とされる性質及び短所とされる性質をそれぞれ10ずつかげてまとめてもらつた。この質問は、他の質問とちがつて、設問を通じてではなく直接に、また県民自身評価としてとらえる点に特長がある。まず長所で「勤勉」(33%)、『親切』(33%)、『明朗』(28%)、『ねばり強い』(26%)、『淡白』(24%)などが多かったがとくに多数意見とまでいえるものはなかつた。全体で100%をこえるのは、まるはいくつつけも良いとしたためである。) 次に短所では、『気が短い』(1%)が多数の人に指摘され、『熱し易くさめ易い』(1%)も半数に近い人たちがまるをつけたが、他の性質は少くなつて『しうねん深い』(12%)、『固的』(12%)、『傲慢』(11%)以下すべて少数

となつている。両方を比較してみて、長所には多くの県民に共通にみとめられるようなものが少ないかわり、短所の「気が短い」と「熱し易くさめ易い」というお互によく似かよつた性格が多数の県民によつて意識されていることがわかる。

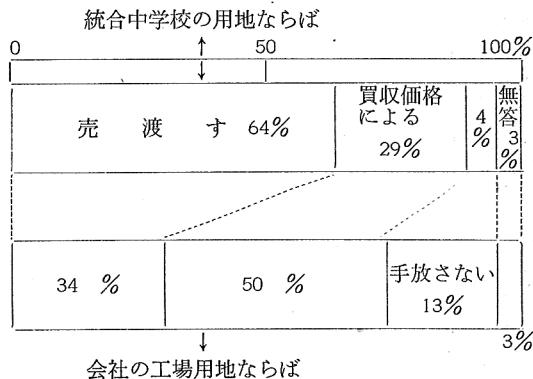
「日本人は西洋人とくらべて、すぐれていると思うか、劣っていると思うか」という質問では「すぐれている」(36%)が「劣っている」(20%)を上まわつた。しかし、むしろ「同じ」(37%)と答えたものが前の2つを上まり、「D.K(無答)」(7%)も加えると40%以上が「すぐれている」とも「劣っている」とも答えなかつたことになる。

競技と国旗掲揚の問題で「優勝者の国旗をかかげてその国の名誉をたたえるオリンピックと、国と国との間の競争をさけるため国旗をあげないアジア大会ではどちらがよいか」という質問では、国旗をあげるべきだとする「オリンピック」(71%)が多数意見を占め、あげない方がよいとする「アジア大会」(23%)は少なかつた。こうした結果から、県民には国家意識がかなり強いと言つてよいと思われる。

### (9) そ の 他

「自分の職業を将来子供につがせたいと思うか」という設問では、『つがせる』(31%) が『つがせない』(18%) を上まわつたが、『場合による』(39%) はさらに多く、『答えられない』(10%) もかなりあつた。この回答には、年令、学歴、職業、地域別等による差が多かつたが、職業別では、ホワイトカラー、ブルカラーなどのいわば、近代的職業群では『つがせない』が多く、反対に農株水産業従事者(54%)、小企業主、家族従業者など世襲的な色彩の強い職業層では『つがせる』が多くなつてゐる。

図4 用地壳渡すか



「先祖伝来の土地が用地買収の対象になった場合」という設問では、それが「統合中学校用地」なら「公益の

ため売渡す〃(64%)が多く、〃買収価格による〃(29%)がこれに次ぎ〃手放さない〃(4%)はきわめてわずかである。しかし「会社の工場用地」となるとかなり事情がかわり、〃買収価格による〃(50%)が〃地域発展のため売す〃(34%)を上まわり〃手放さない〃(13%)も中学校の場合より多くなる。これらの問題から、公共的事業への協力性はかなり高いといつてよからう。

「村會議員の選挙」では、たとえ部落推せんの候補者があつても、〃人物本位で〃(77%)投票するとする者が大多数で、〃部落推せん〃(22%)の人に投票するという答えは少なかつた。なお、この問題には学歴による傾向がみられ、高学歴ほど〃人物本位で〃とするスジの通つた答えが多くなつてゐる。

「観光開発はよいか」という質問では、〃好ましい〃(79%)が多数意見で、〃好ましくない〃(17%)はかなり少なかつた。観光開発には、自然美がそこなわれたりするマイナスもあり得るが、県民全体としてはそれを好ましいとする意向が強いわけで、前の用地買収の問題と同じように、公共的事業への協力的態度の強さがうかがわれるが他面、レジャー関連の消費が盛んな生活態度の反映ともみられよう。

#### (10) 要約一平均的県民像一

ここで、今まで述べてきたことを整理して、県民全体にほぼ共通する物の考え方や感じ方、行動の仕方などを列挙してみよう。これは、県民全体を統計的に観察して明らかにした〃平均的県民像〃とでもいべきものである。

〈個人的生活態度〉 世のしきたりを押しきつてでも所信を貫こうとするはげしさはあまりなく、自然と人間との関係、首相の伊勢参り、側人との関係などにも見られるように、やや保守的で、かつ比較的の穏健、中庸な態度を持つている。くらし方としては、金持になると、社会のためにとかいつたいわば目標のはつきりした生活よりも、清潔で、趣味に合つた平和な、いわば小市民的な生活を望んでおり、さらに、こうした答えおよび資金よりも勲章を、競輪はよくないなどの答えからみて、精神主義的な志向も強い。

〈宗教観、道徳観〉 宗教や信心は持つているか、持つていないまでも宗教心は大切だと思つており宗教心はあつい方だといえる。また、「大切な道徳」の問題からは、やや古風な道徳觀がみられ、目的(教育施設をつくる)が立派だからといって競輪はよくない、清く正しくくらすことを望む善意のウソでも許さないなどからは、潔癖さもうかがわれる。

〈人間観〉 人間の本来の性質は本来白紙であるかあるいは善であるとする明るい人間觀をもつている、これは、明朗で淡白な県民性のうらがえしともみられる。ま

た、県民は勤勉で親切であると自己評価しているが、面気が短かく、熱しやすくさめやすいことも自覚している。

子供の人格は尊重し、男女差別の考えは少ないといつた点では近代的人間觀をもつているが、この世の中には女よりも男の方に都合よく出来ていると感じている現実には男男差別のあることを裏書きしている。

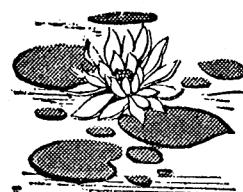
〈家、義理、人情〉 何かをするときは、本家、といつたことを考えに入れことが多いなど、家はなお強い

恩人のためとあれば、公(おおやけ)の立場にあらずとしてとるべき態度をかなりゆるめる傾きがあり。七士の仇討には肯定的であるなど、恩義ある人への立てを重んじ、上司としては、仕事では無理を言へんどうをみる課長を選ぶことや菓子を買う問題ならば、いわゆる人情を大切にする態度がうかがわれる。

〈経済観〉 出し合う金が高ければはつきり高いが、労組をつくることには賛成、結婚式や葬式は身に応じてというような経済的合理性にかなつた態度もあるが、他面買物の問題にみられるように人情に任され方や、賞金より勲章をという実利より名誉を重視する、くらし方や一番大切なものにみられる精神主義など、前とは反対の傾向もあつて一貫しない。

〈社会観、政治観〉 公益のためなら先祖伝来のでも売渡し、観光開発は好ましいと思うなど、公業には協力的である。また、労働組合をつくることは賛成、選挙は部落推せんに拘束されないなどの答は、いわば〃開かれた〃社会觀がみとめられる。

特定の政治的または思想的傾向を持つ者は少なく、選挙への関心は高く、部落推せんにかかわらず人を投票するなど、選挙に対する態度は進歩的である。なお、国旗の問題に関する限り国家意識は強いが、人種的偏見は少ない。



予 約 募 集

## 統計で明らかにされた県民性

茨城県統計課編

# 茨城の県民性

## —県民性調査結果報告—

B5版 130頁 價格 400円

- 「水戸ッポ」などという呼び名もあるが、茨城県民のものの考え方や感じ方行動の仕方など＜県民性＞にはどのような傾向や特徴があるか——「県民性調査」は、それを統計的に明らかにしようとして、こんどはじめて実施されました。
- 本書は、県民性調査の実施の概要と集計の結果を集録し、これに解説を加えたものです。
- なお、本書では、県民性調査の結果を「国民性調査」（文部省統計数理研究所）や他の2、3の県で実施した同種調査の結果とも比較しながら、茨城の県民性の特徴を明らかにしています。

◆進呈 本書の申込者に別冊『統計編』(B5版 150頁)  
を進呈、ただし先着700部限り。

◆お申込みは、代金をそえて下記へ。

水戸市三の丸

茨城県開発部統計課内  
電話水戸(2)5505  
振替口座東京85415

茨城県統計協会